

## 2009年1月

日時	発言者	内容	市場への影響
1月4日	イエレン サンフランシスコ連銀総裁	「通常の景気後退よりも下降局面が深く長くなりそうだ。」サンフランシスコの講演で。	-----
1月4日	フェルドシュタイン前全米経済研究所所長	「第二次大戦後のどの下降局面よりも厳しい。」サンフランシスコの講演で。	-----
1月7日	オバマ次期大統領	「われわれは1兆ドルの財政赤字を引き継ぐことになる。」「迅速かつ大胆な景気対策は経済に不可欠。」「記者会見で財政再建より景気優先の認識を示す	-----
1月7日	ホーニング カンザス連銀総裁	「4～5年で流動性供給が解除されなければ深刻な問題になる。」「過度に低金利を維持しすぎることのないよう注意を促す。	-----
1月13日	バーナンキ FRB議長	「追加的資本注入や、(政府)保証が必要になるかもしれなし。」「バッドバンクの設立を含め、FRBは多くの政策主手段を保有している。」「ロンドンの講演で、今後の政策運営について。	-----
1月15日	トリシェECB総裁	「経済の先行きはさらに弱まっている。」「インフレ圧力が引き続き弱まっている。」「次回の重要な会合は3月だ。」「政策金利の引き下げを決めた直後の記者会見で。	ユーロ/ドル1. 3060→1. 32台へ
1月19日	欧州委員会	2009年のユーロ圏実質経済成長率見通しをマイナス1. 9%まで落ち込むと発表。	ユーロ/ドル1. 3370→1. 30台後半へ
1月21日	ボルカー元FRB議長	米経済建て直しには「数兆ドルが必要だ。」米公聴会での発言。	ドル売り/円買いが加速。
1月22日	ガイトナー次期財務長官	「大統領は中国が自国通貨を操作していると信じている。」「強いドルは米国の国益だ。」上院公聴会で。	後者の発言でややドル高に。
1月27日	ガイトナー次期財務長官	「ドルの価値は米国民にとって大変重要。」財務長官就任の上院公聴会で。	-----
1月29日	ジョージソロス	「不良資産対応に向け国際的合意を達成させるため、欧州連合が主導して取り組まないかぎり、ユーロは生き残れないかもしれない。」「メディアの質問に答えて。	ユーロ/ドル1. 31台→1. 29台へ
1月29日	トリシェECB総裁	「政策金利を2%以下まで引き下げ、景気支援に向け他の策も講じることが可能。」と発言。	ユーロ/ドル1. 31台→1. 29台へ

## 2009年2月

日時	発言者	内容	市場への影響
2月2日	オバマ大統領	「バッドバンク」構想について「われわれは不良資産の一部を切り離さなければならない。」「4兆円も税金を使うことはない。」	-----
2月4日	ペロシ米下院議長	「オバマ政権による追加的な銀行救済策の要請があるかどうかは疑問。」	-----
2月5日	トリシェECB総裁	「次回会合での利下げの可能性を排除しない。」「経済は明らかに下振れ方向だ。」政策金利据え置きを決めた理事会後の記者会見で。	ユーロ/ドルはやや下落。影響は限定的。
2月6日	ローマー米大統領経済諮問委員会(CEA)委員長	「大胆な財政出動に踏み切らなければ、失業率は二桁に達するおそれがある。」雇用統計発表後、景気対策法案の早期成立を求めて声明を発表。	-----
2月10日	ガイトナー財務長官	「金融システムの現状は回復に向けた取り組みとは逆行している。」「銀行のバランスシートを健全かつ強くしなければならぬ。」金融安定化法案発表この講演で。	NYダウ下落幅拡大。
2月10日	バーナンキFRB議長	FRBによる金融機関への大量の流動性供給は金融の緊張を緩和する上では実績のある対策だが、万能薬ではない。」	NYダウ下落幅拡大。
2月12日	オバマ大統領	自動車大手の救済に関して「労使が厳しい変革を実施した場合、相当な支援の用意がある。」と表明。	-----
2月17日	ギブズホワイトハウス報道官	GM、クライスラーの再建計画書提出期限に関連して「破産を通じたりストラの可能性をオバマ大統領は否定できない。」自動車業界は米経済にとって「非常に重要だ。」と強調。	-----
2月20日	ギブズホワイトハウス報道官	「銀行システムは民営であるべき。」銀行国営化論の台頭に対して。	NYダウやや上昇。
2月20日	ドッド上院銀行委員会委員長	「銀行国有化はありえる。」	金融株を中心にNYダウ大幅下落。
2月23日	トリシェECB総裁	「ユーロ圏の金融システムは深刻な緊張状態にある。」	ユーロ/ドル1.29台→1.27台に、ユーロ/円121円台→120円台に。
2月24日	米連邦預金保険公社(FDIC)ベアー総裁	「大手銀行の現時点での資本レベルは十分である」	銀行株が大幅に買われ、NY236ドル高に。
2月24日	バーナンキFRB議長	「今年後半から徐々に経済成長が再び始まる。」「景気の全面的な回復には2-3年以上かかる。」上院での証言で2010年から景気が回復する可能性を示唆。	ドル高に弾み。

## 2009年3月

日時	発言者	内容	市場への影響
3月3日	バーナンキFRB議長	「この1年半に起きた出来事で、最も強い憤りを覚えたのはAIGを置いてほかならない。」金融システムはまだ安定していない。」議会証言で発言。	保険株を中心に米株式下落。
3月5日	トリシェECB総裁	「現行水準(政策金利の)最低水準と決めたわけではない。」「今年中に(インフレ率が)マイナスになる。」追加利下げ決定後の会見で。	ユーロが大幅に下落。ユーロ/円124円後半→122円台へ。
3月6日	大統領経済諮問委員会ローマー委員長	景気回復の時期について「年後半には効果が表れる」TVのインタビューで。	-----
3月7日	世界銀行	2009年世界景気は戦後初めてマイナス成長に。(世銀が今年度の経済見通しを発表。)	-----
3月7日	ウォーレンバフェット	米経済は「がけから転落した。」「現在の政策は強いインフレ要因となり得る。」米経済が非常に厳しい状況にあり、ある程度のインフレは適切との見解を示す。	NY株式市場が下落。NYダウ6,547ドルまで売られる。
3月10日	スマギECB専務理事	「ECBは金利をゼロ水準まで引き下げる用意がある。」インタビューに答えて。	-----
3月15日	バーナンキFRB議長	「政府が金融市場の安定に成功すれば、リセッションは年内に終了し、2010年には景気拡大に転じる公算が大きい。」CBSのTVインタビューに答えて。	-----
3月20日	米自動車作業部会スティーブン上級顧問	「GM、クライスラーの債権計画は楽観的な部分もあり、必要な支援額が大幅に増える事態も否定できない。」米メディアに対して。	-----
3月23日	トリシェECB総裁	「ECBは金利をゼロまで引き下げることにについて慎重な姿勢を維持している。」23日付け新聞のインタビューで。	ユーロドル1.35後半→1.37台へ。
3月25日	ガイトナー財務長官	「SDRについては排除しない。」「ドルは引き続き世界において最も有力な準備通貨であり、今後の長期間そうあり続けると思う。」NYの講演で。	ドル円97円ミドルから96円台、更に97円台に。
3月26日	ルービニNY大学教授	ブルームバーグテレビジョンのインタビューに応じて「大手銀行のいくつかは国有化が必要になるだろう。」不良債権処理に向けた米財務省の計画は不十分との見方を表明	-----
3月30日	オバマ大統領	GMについて「根本的なリストラを実施すれば復活できる。」とし、クライスラーについては「単独での生き残りは困難。」と指摘。(両社に対する追加資金提供に際して)	-----

## 2009年4月

日時	発言者	内容	市場への影響
4月2日	トリシェECB総裁	「今回の金利が最低ではない。利下げは可能だ。」政策金利を引き下げた後での記者会見	ユーロドル1.33台→1.34台後半へ。
4月5日	ガイトナー財務長官	GMの再建問題について「相当なりストラが必要。」CBSテレビのインタビューで。	-----
4月5日	GMヘンダーソンCEO	「必要であれば破産法を活用した再建策をとる。」と改めて強調。CNNテレビのインタビューで。	-----
4月6日	投資家ジョージソロス	「米経済は年内に回復しない。」「ドルの基軸通貨としての役割が将来、IMFの特別引き出し権(SDR)にとって代わられる可能性がある。」ロイターフィナンシャルテレビに答えて。	-----
4月8日	FOMC議事録 (3月17日ー18日分)	「参加者は、暗い景気見通しはさらに下振れリスクが支配的との認識を表明。雇用減や生産減に伴い、消費が圧迫されていることから、負の循環がもたされる可能性がある。」と記述。	ドル円100円台前半→99円台前半まで下落。
4月8日	グリーンズパン前FRB議長	「住宅価格が下げ止まるまで景気後退は続く。」「経済統計の速報値はマイナス幅が縮小している。」シカゴでの講演で。	-----
4月9日	ホーニング カンザスシティ連銀総裁	「ストレステスト対象の19行は当局によるストレステストの審査で、更なる政府の介入が必要と判断される銀行はほとんどないだろうと考えている。」オクラハマ州での講演で。	株式市場での金融株急騰に大きく影響。
4月10日	オバマ大統領	「米経済はなお厳しい緊張下にある。」としつつ「米経済にはかすかな希望の光も見え始めている。」財務長官、FRB議長との金融安定策協議後の会見で。	-----
4月14日	バーナンキFRB議長	住宅や消費の回復を挙げ「景気の急激な悪化が減速している可能性を示す兆候がみられる。」「私は米経済については基本的に楽観的だ。」ジョージア州での講演で。	-----
4月14日	サマーズ米国家経済 会議(NEC)委員長	ここ数週間の米経済指標について「リセッションの深刻さが緩和されつつある可能性を示唆している。」ブルームバーグのインタビューに答えて。	-----
4月15日	ウェーバー独連銀総裁	「ECBは5月初旬の定例理事会で非伝統的な金融政策を決定するだろう。」「政策金利の1%未満への引き下げには批判的だ。」ハンブルグでの講演で。	ユーロドル1.32台半ば→1.31台半ばへ
4月17日	スイス国立銀行総裁	「デフレ懸念がある限り、為替介入を含む非伝統的な金融緩和手法を続ける。」一部メディアが伝える。	ドルスイス1.14台→1.16台へ。

## 2009年5月

日時	発言者	内容	市場への影響
5月4日	バーナンキFRB議長	住宅市場について「底入れの兆候がいくつか出ている。」とし、景気については「今年遅くに上向くと期待し続けている。」と発言。(議会での証言で)	ややドル高に。
5月6日	ガイトナー財務長官	「審査結果はすべてを考慮すると、安心感を与えるものになると思う。」「19行の中で支払不能リスクのある銀行はない。」と発言。(PBS放送のインタビュー番組で)	-----
5月7日	ガイトナー財務長官	「金融機関は追加資本を民間から調達することに合理的な自身を持っているようだ。」ストレステストの結果発表後の記者会見で。	-----
5月8日	ラッカー、リッチモンド連銀総裁	「住宅や個人消費の安定が続けば、年末までに経済成長はプラスになる。」講演で	-----
5月11日	ヘンダーソンGMCEO	「破産申請の確立が従来の想定に比べ高まった。」同社の電話会議の中で。	-----
5月12日	グリーンズパンFRB前議長	「米住宅市場は回復に向かう寸前である可能性があり、金融市場の改善の持続が極めて容易に見て取れる。」「企業が相次ぎ資本を調達しており、調達額は予定額をはるかに上回っている。」ワシントンでの全米不動産業者協会で講演。	-----
5月13日	ガイトナー財務長官	「金融システムの調整のかなりの部分を終えた。」講演で。	-----
5月14日	ヘンダーソンCEO(GM)	破産法適用の申請は現時点で「蓋然(がいぜん)性が高い。」と、これまでの発言から一歩踏み込んだ認識を示した。(ブルームバーグとのインタビューで)	-----
5月18日	杉本財務事務次官	「相場の過度の変動は経済金融の安定に対して悪影響を及ぼし、好ましくない。」と会見で発言。	ドル円95円前半→96円台に。 円全面安に。
5月19日	スターン、ミネアポリス連銀総裁	「信用市場は過去数カ月間に全般に改善した。」「景気後退はあと数カ月続く可能性は高いが、来年中ごろまでに健全な成長に戻る。」ミネソタ州での講演で。	-----
5月20日	ガイトナー財務長官	「金融システムが落ち着き始めている兆候がある。」「良い兆候はあるが、金融機能の修復には時間がかかる。」と上院で証言。	-----
5月22日	与謝野財務金融経済財政担当大臣	「現時点で為替介入することは考えていない。」と表明。	94円台前半での動きから、 一時93円85銭までドル安円高に。
5月25日	ウェーバー独連銀総裁	「いくら改善はみられるものの、危機終了を宣言するにはまだ早い。」フィンランドのテレビ局とのインタビューで。	-----

## 2009年6月

日時	発言者	内容	市場への影響
6月4日	トリシェECB総裁	ECBの政策金利は現時点では「適正」と述べ、ユーロ圏の経済成長率は「今年末にかけてはマイナス幅が大きく縮小する。」との見通しを示す。(定例理事会後の記者会見で)	-----
6月8日	クルーグマンプリンストン大学教授	「後から振り返って米国のリセッションの終りが今夏のある時期だったと公式に判定されても驚かないだろう。」と米経済は9月までに景気後退から脱却するとの見方を示した。(ロンドンスクールオブエコノミクスでの講演で)	-----
6月11日	ロックハートアトランタ連銀総裁	「準備通貨としてのドルに差し迫った危機はないが、新興市場の成長に対してドルの地位は徐々に弱まる。」講演会で。	ドル円97円台から一時98円台半ばへ。
6月11日	ルービニNY大学教授	「準備通貨としてのドルを補完する通貨が浮上するかもしれない。」「いずれドルの役割を低下させるだろう。」アテネでの講演会で。	-----
6月13日	ガイトナー財務長官	「米国のデフレ懸念は後退した。」世界経済については「依然として潜在成長をかなり下回っている。」イタリアでのG8財務相会合で。	-----
6月13日	クドリンロシア財務相	「ドルの代替通貨を議論するのは時期尚早。」G8財務相会合後、ブルームバーグとのインタビューで。	ユーロ、ポンドなどが対ドルで大きく下落。
6月16日	オバマ大統領	「今われわれがやってることは全て、ウォール街の無謀な行為の後片付けだ。」と金融幹部が痛みを忘れそうなことに警鐘を鳴らした。(ブルームバーグテレビジョンとのインタビューで。)	-----
6月23日	スペンサーディール BOEチーフエコノミスト	「経済成長を喚起するには弱い通貨が経路になる。」と講演で。	ユーロポンドで大幅なポンド安に。 0.8550→0.8599
6月26日	フィッシャーダラス連銀総裁	「ドルが世界の基軸通貨としての地位を取って代わられることはない。」講演会で。	-----
6月28日	週中国人民銀行総裁	中国の外貨準備政策は「常にいたって安定したものだ。」として、中国の外貨準備政策を突然変更することはないと表明。(スイスのバーゼルで記者団に)	米株式、債券上昇
6月30日	ロバートシラー米エール大学教授	「現在、住宅価格の下落は終わりと考えられつつある。」ケーススラー指数発表後のインタビューに答えて。	-----



## 2009年7月

日時	発言者	内容	市場への影響
7月2日	トリシェECB総裁	「ECBの政策金利は現時点では適正」「景気は2010年半ばまでに回復」との見方を改めて強調。(定例理事会後の記者会見で)	ユーロドル1.40台から→1.39台半ばまで下落。
7月8日	オリビエ・ブランシャール IMFチーフエコノミスト	「世界経済はなおリセッション下にあるが、少しづつ回復に向かっている。これまで講じてきた財政や金融、信用供与政策を引き続き実行する必要がある。」と文書で発表。	-----
7月13日	トリシェECB総裁	ドイツミュンヘンでのイベントで「出口への準備は重要だ。時期尚早だとの認識は誤りだ。」と語り、「出口戦略」の検討は必要との見方を示す。	-----
7月14日	ガイトナー財務長官	サウジアラビアでの演説で「米政府の金融政策とFRBの政策は＜強いドル＞の支持で一致している。」と述べた。	-----
7月15日	ルービニNY大学教授	NYで開かれたチリの投資家のための会議で「米経済の急降下は止まった。経済は今も縮小しているが、そのペースは穏やかだ。」と述べ米景気後退は終焉を迎え、リセッションを終えるとの見方を示した。	NY株式市場上昇
7月21日	バーナンキFRB議長	「景気下降のペースは著しく緩やかになった。」「金融政策は引き続き景気回復を促すことに重点を置く。」景気は良い方向に向かっているが、現行金融政策継続との考えを示す。(下院での議会証言で)	債券相場上昇(長期金利低下)
7月22日	バーナンキFRB議長	「(住宅価格の下落が終わったとは)決して言いきれない。」「住宅価格もある程度安定したように見受けられるが、価格には下振れ圧力がかかっている。」(上院での議会証言で)	-----
7月26日	バーナンキFRB議長	「今年下期(7-12月)の経済成長率は1%のプラス。失業率は10%を超えた後低下し始める。」と発言。(カンザスシティーでのタウンミーティングで)	-----
7月27日	ガイトナー財務長官	米中戦略経済対話での挨拶で「2013年までに政府の財政赤字を持続可能な水準まで削減する方策に取り組んでいる。」と述べた。	-----
7月27日	プロッサーフィラデルフィア 連銀総裁	ウォールストリートジャーナル紙の取材に対して「おそらくそれ程遠くない将来に金利を引き上げははじめなければならないだろう。」との見方を示した。	-----
7月28日	スティーブンスオーストラリア 準備銀行(RBA)総裁	「他の多くの国とは対照的に、豪州の現在の景気下降は最後の深刻な下降期の一つではないと判断する公算がある。」(シドニーでの講演で)	オージーUSDドル0.82台から→0.8315、 オージー円78円台半ば→79円28まで豪ドル高進む。

## 2009年8月

日時	発言者	内容	市場への影響
8月2日	グリーンズパン前FRB議長	「米経済は大方のエコノミストの予想を上回るペースで成長を再開する公算がある。」GDPの数字に関してインタビューに答えて。	-----
8月5日	スティグリッツ コロンビア大学教授	米景気の回復について「総需要不足という根本的な問題は残っており、景気回復は非常に緩慢なものになる。」と予想。FRB議長の再任についても「交代を検討してみるべき」との見方を表明。	-----
8月9日	ローラ・タイソン 米大統領経済顧問	米景気について「すでに安定化し、上向き始めている可能性がある」クアラルンプールでのインタビューで。	-----
8月20日	ガイトナー財務長官	景気先行指標、フィラデルフィア連銀指数がプラスに転じたことについて「まだ道のりは長いですが、安定化の兆しが見え始めた。回復への最初の一步だ。」オハイオ州での講演で。	-----
8月26日	ロックハート アトランタ連銀総裁	「全体的には米経済は改善しているが、なお脆弱だ。FOMCが政策金利を長期にわたって低水準で据え置くとの方針を示しているが、私もこの方針が必要だと考えている。」テネシー州のスピーチで。	-----



## 2009年9月

日時	発言者	内容	市場への影響
9月3日	トリシェECB総裁	「景気が非常に緩やかに回復している。」「今は【出口の】時ではない。」ECB理事会後の記者会見で。	-----
9月4日	ウェーバーECB理事(独連銀総裁)	「これ以上の景気拡大的措置は必要ないと認識している。」政策金利がさらに引き下げらるの可能性があるか、という記者団の質問に答えて。	-----
9月9日	フィッシャーダラス連銀総裁	「FRBは出口戦略については議論しており、適切な時期には行動する。」「適切な時期とは企業業績が安定してきた時を意味する。」テレビ東京のインタビューに答えて。	-----
9月9日	リッカネンECB理事(フィンランド中銀総裁)	「流動性吸収は利上げとは別物。」「ユーロ圏の成長は緩やかで、インフレ圧力はない。」ヘルシンキでの記者会見で。	-----
9月15日	バーナンキFRB議長	「米景気後退は現時点で終わっている可能性が非常に高い」講演で景気後退の収束に言及。	株式市場は好感しNYダウは続伸。
9月16日	藤井財務大臣	「強い円は日本にとって有益。」財務大臣就任に際して。	91円00→90円12まで円急騰。
9月23日	ガイトナー財務長官	米景気の現状について「景気回復の始まりの局面にある。」サミットを前に記者団に。	-----

## 2009年10月

日時	発言者	内容	市場への影響
10月1日	内海元財務官	「円が特段強くなる理由はない。」としたうえで、数カ月後に1ドル100円に近づく可能性もある。との見方を示した。(ブルームバーグとのインタビューで)	東京時間で89円75から89円程度までドル高に。
10月1日	ラッカーリッチモンド連銀総裁	「米景気回復が確実に定着したならば、たとえ失業率が10%近辺で推移していたとしても、利上げを実施する必要がある。」ブルームバーグとのインタビューで。	-----
10月1日	トリシェECB総裁	「過度の為替相場変動は景気に悪影響を及ぼしかねない。」G7を前に。	ユーロドル1.46台→1.4半ばに
10月6日	スティーブンス・RBA総裁	「金融政策による刺激策を徐々に終わらせる時期に来了。」1年半ぶりに利上げに踏み切った後の記者会見で。	豪ドルは対米ドルで0.8800→0.89、対円で78円→79円に。
10月8日	バーナンキ・FRB議長	「経済見通しが十分改善すれば、引き締めを用意がある。」FRB主催の会議で講演。	主要通貨に対してドルが若干上昇。
10月8日	トリシェECB総裁	「市場は穏やかに正常化に向かっている。」出口戦略については「経済環境が好転したら実施する。」政策金利据え置きを決定後の会見で。	-----
10月8日	ルービニ・NY大学教授	最近の金価格の上昇について「金価格が一時的に大幅に上昇するするはずはない。短期的にはレンジ取引になる。」と述べ、デフレ状況にある中、金が上昇する理由はないとの見方を示した。(ブルームバーグとのインタビューで。)	-----
10月9日	コーン・FRB副議長	「インフレだけでなく、政策金利の道筋に関する効果的な伝達は、ゼロ金利制約にある時は特に重要かもしれない。」ワシントンでの金融政策会合で。	-----
10月19日	ロウ・RBA総裁補佐	景気見通しの改善に伴い「景気刺激策の一部を解除し始めるのが適切だ。」と発言。(シドニーの会議で)	豪ドル→対ドルで0.92前半から0.92後半へ。対円で93円半ばから94円台前半へ。
10月22日	プロクサー・フィラデルフィア連銀総裁	「わたしの直感では、利上げの時期は同僚の多くが考えている時期より早くなる。。」ブルームバーグとのインタビューで。	-----
10月29日	サマーズ米国家経済会議委員長	「これは歓迎できるニュースであり、政策効果の表れだ。米経済は危機を脱しつつある。」GDP発表を受けて。	-----

## 2009年11月

日時	発言者	内容	市場への影響
11月2日	グリーンリーFRB銀行監督規制局 副局長	「米国の銀行システムは今も強固な状態からは程遠い。」(アトランタの小委員会で証言)	-----
11月2日	ボルカー元FRB議長	米経済について、依然として「底に非常に近い状況。」だと述べ、雇用拡大に向けた政策が必要との認識を示す。 (CNBCのインタビューで)	-----
11月3日	スティーブンスRBA総裁	「オーストラリア経済は潜在成長率に近く、段階的な利上げは可能。」(先月に続き利上げを決めた後の会見で)	市場の多くは利上げを読んでいたため利益確定の豪ドル売りに押され、豪ドルは対米ドルで0.9085→0.9020まで下落。
11月10日	イエレン・サンフランシスコ連銀総裁	「金融当局は緩和措置を継続する必要がある。」 「正式にリセッションは終了してないが、景気は持続的な拡大期に入った」と指摘。	-----
11月11日	ウエーバー・独連銀総裁	「金融政策の分野において、物価安定へのリスクが顕在化した場合に対処することは極めて重要だ。」 「出口戦略を取る適切な時期を逃してはならない。」(独ホーヘンハイムでの講演で)	-----
11月16日	バーナンキ・FRB議長	「なお重大な試練に直面している。」「経済活動も弱く、失業率も高すぎる水準にある。 将来的に揺り戻しに直面する可能性がある。」また、ドル相場について「注視している。」と発言。(NYエコノミック・クラブでの講演で)	ドルはやや買い戻されたものの、勢いは限定的。
11月17日	トリシェ・ECB総裁	FRB議長が16日にドル相場について発言したことは「非常に重要だ。」と発言し、ドル高は世界の利益にかなうと改めて強調。	ユーロドル1.49台後半→1.48台半ばへ
11月18日	ブラード・セントルイス連銀総裁	過去の経験を踏まえると政策当局は利上げを2012年前半まで実施しない可能性がある。」との見方を表明。	ユーロドル1.48台後半→1.50目前まで上昇。
11月19日	ガイトナー財務長官	「中国が人民元相場の柔軟化を進めると強く確信している。」と述べ、中国が為替政策を調整するのにそれほど時間がかからないとの見方を表明。	-----
11月25日	藤井財務大臣	NYで円が急騰し87円台前半をつけたことについて「円の問題ではない。ドル安から来ているのは間違いない」 「一般論として急激な動きの時はまず慎重に見守る。」との考えを表明。	-----

## 2009年12月

日時	発言者	内容	市場への影響
12月7日	バーナンキ・FRB議長	「金融状況が全般的に改善しているにもかかわらず、多くの借り手にとって信用状況は依然厳しい。」と指摘。労働市場については「引き続き脆弱(ぜいじゃく)だ。」と発言。(ワシントン・エコノミック・クラブでの講演で。)	ゼロ金利継続との見方からドル円 90円→89円台前半へ。